

「シシウド」*Angelica pubescens* (セリ科) は、高原や亜高山体の湿原などでよく見かける植物です。植物体全体を見ると、見事な散開花序なのですが、地味でちっとも美しくなく、写真の対象にもならない、どちらかと言えば「不遇な野草」です。しかし花に顔を近づけてみるとなかなか繊細で、よく観察してみたいと思わせるような構造でした。

私が興味を持ったのは、この地味な花が「風媒花」なのか「虫媒花」なのかという点です。目だった花弁もなく、香りもほとんどありません。一見して風媒花に決定！と思わせる姿です。しかし、しばらく花を観察していると、何匹ものアリが訪れて、恐らく吸蜜しているのだろうという行動を目撃しました。そういえばかつて北軽井沢でも、シシウドの花に「ヒョウモンエダシャク」(豹紋枝尺；チョウにそっくりな美しいシャクガの一種) がとまって、吸蜜しているのを見たことがあります。やはり虫媒花なの・・・でしょう。

(2024年8月上旬/長野県霧ヶ峰八島湿原)

